

# 2018年度 事業報告書・決算報告書

(第4期)

自 2018年4月 1日

至 2019年3月 31日

一般財団法人日本ヘルスケア協会

東京都港区虎ノ門一丁目 15番 10号

名和ビル 3階

## 平成 30 年度事業報告について

### 【活動の概況】

昨年 6 月の宗像事務総長の急逝は、日本ヘルスケア協会の今後の活動に大きな影響を与える出来事でしたが、理事・監事の皆さまのご努力のおかげで、基本方針並びに当初実施および実行を予定していた活動を次のとおり行ないました。

部会、研究会は計 15 が活動し、9 月に行われた第 2 回日本ヘルスケア学会年次大会及び日本ヘルスケア協会活動発表会で成果の発表などを行いました。月 1 回の記者会見で活動状況を発表するとともに、ホームページ上で会の活動を PR してきました。

平成 30 年度に寄付金を集めることができたことは大きな前進であり、公益財団法人化を目指すことが理事会で決定され、現在、準備を進めています。

また、2025 年の大阪万博開催について、日本ヘルスケア協会として協力を表明し、当局との打合せがスタートできたことも大きな出来事でありました。

### 1. 基本方針

- 1) 十分な事業活動を行えるよう、収入基盤を強化する
- 2) 健康寿命延伸に向けた具体的実施事項について、強い提言を行う
- 3) 部会、研究会の活動実績をつくる
- 4) これからの社会に望まれるヘルスケア活動を行う
- 5) 業界横断的にヘルスケア（予防）概念の普及を目指す

### 2. 事業計画

#### 1) 一般財団法人日本ヘルスケア協会の年次活動

##### (1) 第 2 回日本ヘルスケア学会年次大会及び日本ヘルスケア協会活動発表会の開催

(9 月 7 日・8 日、明治大学駿河台キャンパス・アカデミーホールほか)

第 2 回日本ヘルスケア学会及び日本ヘルスケア協会活動発表会と題して、9 月 7 日～8 日の両日、明治大学駿河台キャンパス・アカデミーホール等で開催した。第 1 日目の冒頭は、故宗像事務総長追悼プログラムであった。そのあとは、日本ヘルスケア学会研究会口頭発表、日本ヘルスケア産業協議会の口頭発表や関係官庁の健康寿命延伸政策と意見交換会であった。2 日目は特別講演のほか、公開セミナー、シンポジウム、パネルディスカッション、発表会等、15 本の分科会がアカデミーホール・7 つの教室で同時並行的に開催された。

参加者は 2 日間トータルで 1000 人超え。閉会式では口頭発表、ポスターセッションなどの表彰も行った。次回は、9 月 6 日・7 日の 2 日間で行うことも発表した。

##### (2) 第 3 回ライフスタイルビジョンを開催

3 月に行われた第 19 回 JAPAN ドラッグストアショーの同時開催として、幅広い世代に向けて人生や生活を楽しく健康に過ごすためのライフスタイルの提案と協会活動を紹介するイベントを開催した。今回は 8 社/12 小間ゾーンにて展開した。特に「野菜で健康推進部会」は今年度初の試みとして有償で小間出展。厚労省の目標である「1 日 350 グラムの野菜摂取」の周知を図るため、野菜のカゴ盛り数種類を準備し、ブースへの訪問客に 350 グラムを投票してもらおうクイズを実施。350 グラムを当てた正解者はそれほど多くないことが判明。その他、カラー別の野菜摂取の効用の掲示、全国の伝統野菜マップの配布、野菜の保存期間を引き伸ばすパッケージの配布も行った。今後はヘルスケア産業育成のためにさらなる出展規模

の拡大が大きな課題である。

(3) 業界基準向上のための認証制度を行った

配置販売業の「優良配置販売業者」を継続して実施した。現在、5件となっている。

(4) 大学での講座の受託と実施

- ①東京薬科大学においてAED並びにコミュニケーションに関する授業を継続して受託し、講義を行った。コミュニケーションの授業では、薬剤師の仕事についての理解と習得、そして医療機関や薬局などで必要なコミュニケーションスキルの習得を目指す講義を行った。
- ②その他、大学、専門学校等からの要請に応じて、授業の講師を派遣する  
→ヘルスケア産業および人材の育成のため、大学授業や学会、セミナー、フォーラム等の依頼に対し、有識者や実務者の派遣など積極的に協力するようにする

2) 日本ヘルスケア学会および日本ヘルスケア産業協議会の部会活動

(1) 各部会での実践活動

- ①高齢者の転倒を防止する10分間の「ながら筋トレ体操」の普及活動を実施した  
⇒カーブスジャパン様と「ながら筋トレ体操」の普及に向けて、パンフレットの作成、DVDの作成、イベントなどを行った。今期は日本チェーンドラッグストア協会を通じて、普及に努めた。
- ②「食と健康」市場創造プロジェクトに協力  
⇒日本チェーンドラッグストア協会の「食と健康」市場創造プロジェクトに協力した。また、地域行政とタイアップした健康フェスタにも協賛した。
- ③各部会が連携して予防から自己治療までのセルフメディケーション推進の環境を整備する
- ④その他のヘルスケア推進及び産業育成に関する研究内容を、準備できたものから実践する

(2) コンシェルジュ研修のテーマ別研修コンテンツ制作、提供

⇒平成30年度は、利用者からの要望に合わせて、スマホ対応の準備を進めた。

(3) 認証委員会を設置し、業界のレベルアップおよび活動を支援する（認証制度）

- ①「優良配置販売事業者認定制度」  
⇒配置事業のレベルを高め、新しい機能と可能性を確立するため、認定制度を確立した。  
「優良配置販売事業者」の商標登録を行ない、シールを作成し、認定企業の普及に努めた。
- ②「コンシェルジュマスター認定制度」「健康サポートドラッグ」  
⇒日本チェーンドラッグストア協会の活動が始まり次第、対応する
- ③その他、部会からの申請を認証委員会で協議し、業界向上の必要性和可能性から決定する

(4) 各部会によるヘルスケアに関するテーマ別研究および実践のための検討と活動

日本ヘルスケア学会・ヘルスケア科学部会

- ①「食と健康」に関する研究会  
⇒「食と健康」、「機能性表示食品」、「スマイルケア食品」の合同研究会として実施した。①超高齢社会に向けた食のあり方②市場拡大への課題整理③拡大に向けた取組の方向の3点について検討した。その内容については第2回日本ヘルスケア学会年次大会で発表した。また日本チェーンドラッグストア協会と連携し「食と健康」市場創造プロジェクトを支援した。
- ②スイッチOTCに関する研究会  
⇒セルフメディケーション、セルフケアを推進する上で、重要なツールとなるOTC医薬品は、生活者ニーズに応える事の出来るものとなることが望まれる。研究会では、様々な候補物質リストを基に、生活者視点に立ったスイッチ候補物質の吟味に取り組んだ。その内容については第2回日本ヘルスケア学会年次大会で発表した。

### ③ヘルスケアの職能に関する研究会

⇒地域生活者のヘルスリテラシー向上のため、11月に引き続き3月15日、第19回 JAPAN ドラッグストアショーにおいて、女性の健康対策として「月経」をとりあげ、研修会を開催した。今後も、店頭での相談対応や情報発信に役立つ研修および情報提供を検討中。

## 日本ヘルスケア産業協議会

### ①自己検診推進部会

⇒「セルフチェック」の習慣が国民の間に普及することを目的に、なぜセルフチェックが重要か、セルフチェッカーとしてどのような機器があり、どのように利活用したら良いかを前年度に引き続き検討。今年度は東海大学医学部の高橋英孝教授が部会長を務めるもう一つの部会である「健診推進部会」を一体化させ、集大成としてのセミナー「セルフチェックによる健康維持・増進の最前線～その2」を、協会会員に向けて平成30年5月31日に開催した。

### ②ペットとの共生によるヘルスケア普及推進部会

⇒2018年11月4日に、ヤマザキ動物看護大学と共催で、ドッグウォーキングを開催。30名近い方が参加をした。同日、部会構成員によるパネルディスカッションが行われ、生活者に対して「犬と歩くことで得られる健康効果」を啓発した。

### ③減らせ突然死 救命・AED機器推進部会

⇒第3期救急救命・AED指導員講習会を実施し、救急救命・AED指導員育成計画を継続的に遂行。また、岐阜薬科大学と連携し、ヘルスケア産業界におけるAEDの普及率、及び講習会実施状況の実態把握アンケートを実施。

### ④ドラッグストア在宅介護推進部会

⇒在宅介護のグットライフ実現のため、意見を出し合い検討を行った。3月15日の JAPAN ドラッグストアショーにおいて、「知っているようで知らないリアル在宅介護Ⅱ」をテーマに、今後の製品開発、商品の情報提供のあり方についての参考となる合同セミナーを実施。

### ⑤健康経営推進部会

⇒関係省庁から個別に出されている健康政策を、各省庁の担当者から引き続きレビューしてもらおう（平成30年4月3日；スポーツ庁、同4月23日経産省、11月5日東京都オリ・パラ事務局、平成31年1月22日；厚労省）と同時に、従前より「健康経営」を実践してきた企業の先行事例（同5月21日；㈱フジクラ、同7月23日；㈱富士通ゼネラル、同11月19日；SCSK ㈱）を責任者から聴く会議を継続。

合わせて9月の年次大会では、部会主宰の中間発表会を行った。

### ⑥配置販売業部会

⇒現在認定されている「優良配置販売業者」5社から、来年3月迄に新規認定5社を目標に活動する。また本認定制度以外にも配置販売業の新たな発展を模索していくとともに、今後もビジネスチャンス拡大のため関係諸団体との連携を持ちながら活動する。

### ⑦流通部会

⇒健康寿命延伸とヘルスケア産業の発展に寄与する「食と健康」の食品群の分類整備についての検討を重ねた。9月の活動発表会で口頭発表、分科会で、その報告を行った。分類の検討については、現段階での議論を尽くしたため、一旦の区切りをつけた。

### ⑧医療・介護・健康における職能連携部会

⇒健康維持、治療のための連携体制について、健康全般と口腔ケア分野を取り上げ検討し、「人生のライフステージ別管理表」を作成した。世代ごとに注意すべき疾病や健康問題・課題、とるべき健康対策や、口腔ケアに関わる関連施設、専門家や活動内容などをまとめた。

⑨野菜で健康推進部会

⇒野菜摂取の量が国の推奨より 80 グラム不足するわが国で、摂取量の拡大と、摂取の順序等の質の向上を図るため「人生 100 年アイラブ野菜」キャンペーンを展開することを中心に活動。今年度は、合わせて野菜の機能性表示のあり方を検討し、消費者庁、農水省、内閣官房等に働き掛け、拡販の条件整備を図った。

⑩感染予防技術普及推進部会

⇒病院・介護施設等で用いられている感染予防技術を、一般家庭での在宅介護等に簡易に用いることによって肺炎等の感染症リスクを縮減し、またオフィス等においても病欠や効率低下を予防できるような機器の開発等、条件整備を図ることを中心に活動。年次大会の中では、「未病予防」を実現する、より効果が明確な感染予防のあり方に関する特別講演会を開催した。

⑪在宅感染症予防部会

⇒要支援・要介護者と家族を感染症から守るために必要な知識と対策の普及を目的に、感染予防のための『おうちマップ』（玄関から寝室まで）を制作する形で体系化することを当面の成果として活動してきているが、今年度は在宅感染予防に関する国民的メッセージを子供から高齢者まで親しみやすく覚えやすく伝えるために、キャラクター「ざいたくま」を制作し、LINE スタンプとしても当面 16 個を登録して普及を図っている。

⑫健康長寿のためのウェルネス歯科部会

⇒ヘルスケアにおいて口腔機能の維持・増進が重要との観点から、口腔ケアにおいて有効な手続きを研究開発し、結果を広く一般国民に発信することを目的として活動。平成 30 年度は、実行体制の準備のための会合を繰り返し、31 年度におけるウェルネス歯科セミナーの具体的な開催を計画した。

3) ヘルスケア議員懇話会およびドラッグストア振興議員懇話会の活動

- (1) 体外診断薬を含んだ「スイッチ OTC 化」の拡大と活用環境の整備の推進強化  
⇒スイッチ OTC の拡大に向け、意見交換している
- (2) 食品の軽減税率導入後における OTC 医薬品の軽減税率導入とそのための論理と活動検討  
⇒意見交換を随時、行なっている。
- (3) その他、ヘルスケア産業の各分野から出されたテーマについて検討し、適切に対応する

4) その他

- (1) 会員向け特別無料セミナーの開催(2019 年 4 月以降を含む)

①平成 30 年 4 月 19 日 (木) 14:00~16:00

「薬剤師・薬科大学の行方」セミナー

今西信幸会長、藤田道男氏(次世代薬局研究会 2025 代表)参加申込 33 名

②4 月 23 日 (月) 18:00~19:30

「健康経営推進の最前線」セミナー

山本宣行氏(経産省ヘルスケア産業課課長補佐)、新井卓二氏(山野美容芸術短大特任教授)会場 = 山野美容短大、参加申込 26 名

③5 月 21 日 (月) 18:00~20:00

「健康経営勉強会」、

浅野健一郎氏(㈱フジクラ CHO 補佐)、新井卓二氏(山野美容芸術短大特任教授)、会場 = 山野美容短大、参加申込 27 名

- ④5月24日(木) 13:30～17:00  
「野菜で健康推進の最前線」セミナー、  
丹羽真清氏(デザイナーフーズ社長;野菜で健康推進部会長)他3講師、参加申込33名
- ⑤5月31日(木) 15:00～17:00  
「セルフチェックによる健康維持・増進の最前線」バージョンアップ・セミナー  
高橋英孝(東海大学教授)他4講師、参加申込49名
- ⑥6月14日(木) 14:00～16:00  
「生き残るのは薬局か、ドラッグストアか」セミナー  
今西 JAHI 会長、池野隆光(ウエルシア HDS 会長)、参加申込76名で締切
- ⑦7月17日(火) 13:30～17:00  
「野菜ビジネスのこれから」セミナー  
浅井雄一郎氏(㈱浅井農園代表取締役社長)他6講師、参加申込31名
- ⑧11月6日(火) 13:00～17:00  
「生鮮野菜の個性を伝えるための戦略」セミナー  
宇野文博氏(㈱同文書院代表取締役社長)他4講師、参加申込14名
- ⑨11月8日(木) 13:30～16:45  
「女性の健康管理に関する研修会」  
堀美智子氏(ヘルスケアの職能に関する研究会座長)他3講師、参加申込38名
- ⑩平成31年1月24日(木) 14:00～16:00  
「薬学生就職環境の地殻変動と薬業界の対応」緊急セミナー  
吉村磯孝氏(㈱ファーマ総研 代表取締役)他1講師、参加申込31名
- ⑪3月15日(金) 10:15～11:45  
「女性の健康管理に関する研修会」  
堀美智子氏(ヘルスケアの職能に関する研究会座長)、参加申込32名
- ⑫3月15日(金) 10:30～12:15  
「知っているようで知らないリアル在宅介護Ⅱ」  
小原道子氏(在宅介護推進部会・在宅感染症予防部会会長)他14講師、参加申込67名

## (2) 協会幹部による企業相談日の実施

法人会員からの相談に協会幹部が直接応じる企業相談を実施した。

# 決算報告書

( 第 4 期 )

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

一般財団法人 日本ヘルスケア協会

東京都港区虎ノ門一丁目15番10号  
名和ビル3階

(様式1-1)

## 貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	40,540,022	26,734,132	13,805,890
売掛金	648,000	804,600	△ 156,600
未収会費	116,000	339,000	△ 223,000
未収金	59,670	122,100	△ 62,430
前払費用	1,035,644	0	1,035,644
貯蔵品	190,800	218,250	△ 27,450
流動資産合計	42,590,136	28,218,082	14,372,054
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
(2) 特定資産			
(3) その他固定資産			
建物附属設備	1,037,348	1,196,478	△ 159,130
敷金	9,084,600	9,084,600	0
その他の固定資産合計	10,121,948	10,281,078	△ 159,130
固定資産合計	10,121,948	10,281,078	△ 159,130
資産合計	52,712,084	38,499,160	14,212,924
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,860,119	2,088,485	△ 228,366
前受金	10,515,257	10,809,756	△ 294,499
預り金	8,000	89,000	△ 81,000
未払法人税等	121,400	70,000	51,400
流動負債合計	12,504,776	13,057,241	△ 552,465
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	12,504,776	13,057,241	△ 552,465
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産	40,207,308	25,441,919	14,765,389
正味財産合計	40,207,308	25,441,919	14,765,389
負債及び正味財産合計	52,712,084	38,499,160	14,212,924



(様式2-1)

## 正味財産増減計算書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	24,972,333	21,797,499	3,174,834
法人会員受取会費	24,833,333	21,699,999	3,133,334
個人会員受取会費	139,000	97,500	41,500
学会受取会費	212,166	281,166	△ 69,000
学会法人会員受取会費	0	75,834	△ 75,834
学会個人会員受取会費	209,166	203,332	5,834
学会学生会員受取会費	3,000	2,000	1,000
事業収益	6,144,632	4,090,924	2,053,708
AED受講・管理収益	417,312	815,244	△ 397,932
発表会・年次大会開催収益	1,896,000	850,000	1,046,000
配置販売業部会収益	40,920	168,480	△ 127,560
セミナー開催収益	237,200	0	237,200
ライフスタイルビジョン事業収益	3,553,200	2,257,200	1,296,000
受取寄付金	13,000,000	6,400,000	6,600,000
受取寄付金	13,000,000	6,400,000	6,600,000
雑収益	2,065	180	1,885
受取利息	2,065	180	1,885
経常収益計	44,331,196	32,569,769	11,761,427
(2) 経常費用			
事業費	20,571,705	19,303,574	1,268,131
日本ヘルスケア学会事業費	0	0	0
発表会・年次大会開催費	4,529,523	1,883,157	2,646,366
シンポジウム開催協力費	0	171,083	△ 171,083
食と健康研究会費	5,245	9,898	△ 4,653
ヘルスケアの職能研究会費	73,452	74,854	△ 1,402
スイッチOTC研究会費	2,890	3,712	△ 822
産業史ヘルスケア研究会費	0	0	0
ペットとのHC普及推進部会費	71,696	12,921	58,775
救命・AED機器推進部会	392,771	605,336	△ 212,565
DS在宅介護推進部会費	19,912	24,978	△ 5,066
健診推進部会費	0	0	0
健康経営推進部会費	9,551	740	8,811
配置販売業部会費	28,532	14,508	14,024
流通部会費	9,373	35,204	△ 25,831
医療・介護・健康連携部会	15,988	37,190	△ 21,202
野菜で健康推進部会費	69,380	3,424	65,956
感染予防技術普及推進部会	0	0	0
在宅感染症予防部会	0	0	0
健康長寿のための歯科部会	0	0	0
ライフスタイルビジョン事業費	3,321,232	2,943,147	378,085
業務委託費	2,839,024	2,897,560	△ 58,536
地代家賃	8,381,216	9,519,878	△ 1,138,662
水道光熱費	337,238	317,828	19,410
リース料	180,902	184,632	△ 3,730
減価償却費	125,492	147,728	△ 22,236
雑費	158,288	415,796	△ 257,508
管理費	8,872,702	8,942,459	△ 69,757
給料手当	1,918,400	1,788,600	129,800
法定福利費	10,293	8,938	1,355
顧問料	1,296,000	1,080,000	216,000
会議費	127,754	275,928	△ 148,174

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
旅費交通費	507,187	561,484	△ 54,297
通信運搬費	901,550	856,438	45,112
事務用品費	1,013,227	778,342	234,885
消耗品費	7,897	53,879	△ 45,982
修繕費	103,680	0	103,680
広告宣伝費	236,264	1,112,031	△ 875,767
調査・研究費	0	0	0
水道光熱費	31,291	33,710	△ 2,419
リース料	16,786	19,583	△ 2,797
支払手数料	326,083	358,204	△ 32,121
租税公課	34,800	42,400	△ 7,600
地代家賃	777,640	1,009,685	△ 232,045
交際接待費	154,992	305,880	△ 150,888
業務委託費	823,416	307,319	516,097
減価償却費	11,645	15,670	△ 4,025
保守管理費	97,200	97,200	0
HP維持管理費	305,208	237,168	68,040
雑費	171,389	0	171,389
経常費用計	29,444,407	28,246,033	1,198,374
評価損益調整前経常増減額	14,886,789	4,323,736	10,563,053
当期経常増減額	14,886,789	4,323,736	10,563,053
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	14,886,789	4,323,736	10,563,053
法人税、住民税及び事業税	121,400	70,025	51,375
一般正味財産増減額	14,765,389	4,253,711	10,511,678
一般正味財産期首残高	25,441,919	21,188,208	4,253,711
一般正味財産期末残高	40,207,308	25,441,919	14,765,389
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高			
正味財産期末残高	40,207,308	25,441,919	14,765,389

(注1) 業務委託費の内容はおもに事務局業務であり、委託先は㈱日本リテイル研究所です。

(注2) 業務委託費、地代家賃、水道光熱費、リース料及び減価償却費は、事業用使用割合と管理業務使用割合に応じて事業費と管理費に配賦しています。

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

- (1) 固定資産の減価償却の方法  
建物附属設備 定率法による減価償却を実施している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
最終仕入原価法による原価法によっている。
- (3) 収益及び費用の計上基準  
収益及び費用は発生主義により計上している。  
なお、共通費用は、実際の業務区分に応じ事業費と管理費に配賦している。
- (4) 消費税等の会計処理  
消費税の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。


(単位：円)


科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物附属設備	1,666,369	629,021	1,037,348
合 計	1,666,369	629,021	1,037,348

# 監査報告書

2019 (令和元) 年 6月 6日

一般財団法人 日本ヘルスケア協会  
代表理事 松本 南海雄 殿

監事 瀧本和男 

監事 石下雅樹 

私たち監事は、一般財団法人日本ヘルスケア協会の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業報告・計算書類・すなわち貸借対照表・正味財産増減計算書及びそれらの附属明細書並びに、理事等の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

## 1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事等と意思尊重を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等から職務の執行状況等について報告を受け、また、随時説明を求め、会計帳簿・会計書類・重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査した。

さらに、当事業年度に係る当一般財団法人の事業報告・計算書類及びその附属明細書について監査を実施した。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告書及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当一般財団法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

### (2) 計算書類等の監査結果

貸借対照表・正味財産増減計算書及びそれらの附属明細書は、法令及び定款に従い、当一般財団法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認める。

以上